

谷田部市街地の特徴

谷田部市街地の概要

旧谷田部町の中心として発展してきた谷田部市街地は、従来生活拠点としての役割を担ってきました。また、飯塚伊賀七(江戸時代の発明家)をはじめ、歴史や伝統、文化をはじめとする優れた資源があるとともに、様々な分野で地域を盛り上げようと活動している住民や団体もあり、秋には谷田部市街地のオータムフェア(秋祭り)等のイベントを実施しています。

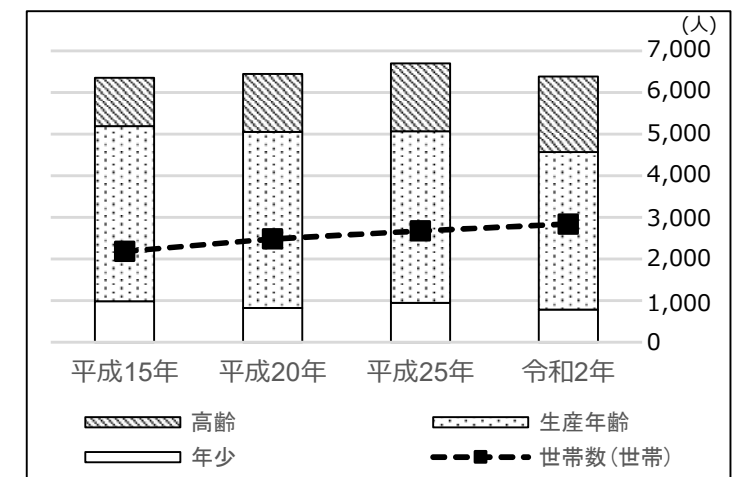
さらに、周囲には常磐自動車道の谷田部ICがあり、交通利便性が高く、みどりの地区(つくばエクスプレス沿線)の開発も進み、人口が増加しています。

周辺市街地位置図



人口・世帯数の推移(令和2年10月時点)

項目\年次	平成15年	平成20年	平成25年	令和2年	
人口(人)	6,356	6,645	6,700	6,383	
年齢階層別(人)	年少	980	818	943	780
	生産年齢	4,213	4,233	4,125	3,788
	高齢	1,163	1,394	1,632	1,815
世帯数(世帯)	2,182	2,483	2,678	2,841	



谷田部市街地のイベント(一例)

季節	イベント名(一部抜粋)
春	・桜まつり(八坂神社)・花まつり(お釈迦様)・大六天祭
夏	・内町祇園祭
秋	・秋祭り(谷田部市街地のオータムフェア)②
冬	・どろ市・元旦祭・凧揚げ・どんど焼き・節分(八坂神社)・初午



① 五角堂(伊賀七による設計)

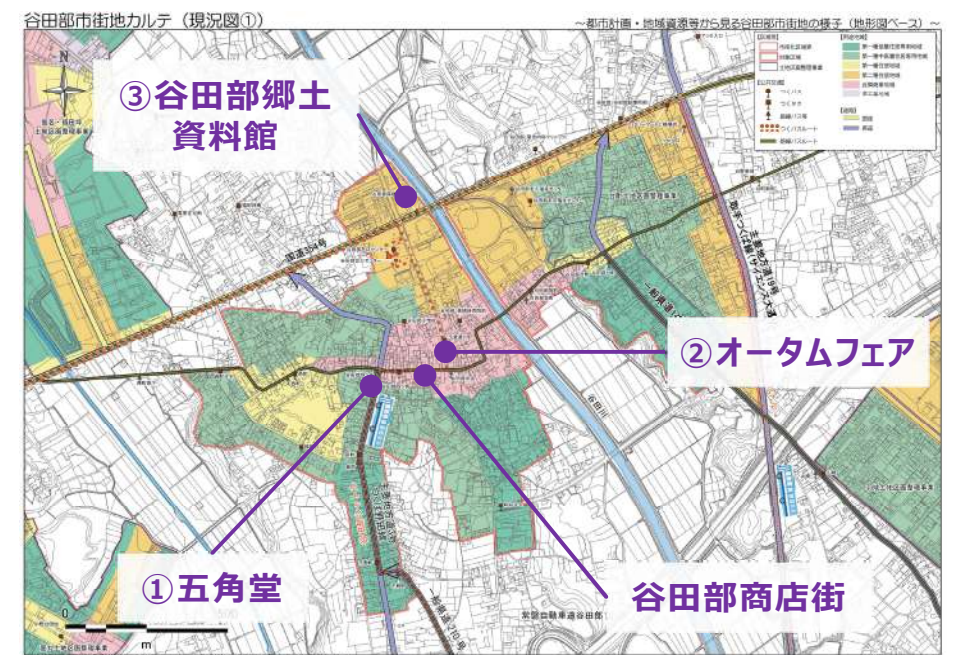


② 谷田部市街地のオータムフェア(H30は伊賀七巡りを実施)



③ 谷田部郷土資料館(伊賀七が発明した和時計)

谷田部市街地の資源位置図



地域が目指すまちづくり

歴史と科学が手を結ぶ 伊賀七に学ぶ やたべの未来

- ・飯塚伊賀七を谷田部のシンボルにしていく（キャラクター化なども）
- ・「伊賀七座しばいや」の活動を通じて飯塚伊賀七の認知度を向上させる
- ・地域の交流拠点として商店街の空き店舗を活用する
- ・行事・祭り・凧揚げ・運動会などイベントを通して多世代交流を図る

周辺市街地活性化協議会の取り組み

谷田部では「谷田部市街地活性化協議会」が地域づくり活動をしています。2019年度は地域の交流拠点として「アラキヤ」の整備が行われ、同じく谷田部市街地で活動する「わわわやたべや町民会議」などによって活用されました。

2020年度は谷田部市街地を紹介するマップの第1弾として「谷田部街道巡り」が作成されたほか、より使いやすい交流拠点づくりに向けた検討が行われました。

【勉強会で出たその他のアイデア】

- ・伊賀七巡りの定期開催（ツアーガイドの確保・育成）
- ・商店街に拠点づくり
- ・学生とコラボしたロボットコンテストの開催
- ・和時計や不動松並木の復活
- ・伊賀七を使った谷田部のPR・周知 など

【飯塚伊賀七とは...？】

江戸時代後期の発明家。谷田部の地に生まれ、生涯を谷田部で過ごした。

「谷田部にすぎたるもの3つあり、不動並木に広瀬周度、飯塚伊賀七」と呼ばれ、谷田部の象徴的な存在であった。からくりや和時計を数多く製作したほか、飛行実験や五角堂の設計など多方面で活躍したため、“からくり伊賀七”の異名を持つ。



【2019年度の活動】

地域交流拠点「アラキヤ」の整備・活用



【2020年度の活動】

マップ作成／交流拠点の改善検討



谷田部市街地の目指すまちづくり

～勉強会等の中で出された地域のアイデアから見る谷田部市街地～

谷田部市街地が目指すまちづくり

歴史と科学が手を結ぶ 伊賀七に学ぶ やたへの未来

地元がやりたいこと（周辺市街地まちづくり勉強会より）

- 飯塚伊賀七を谷田部のシンボルにしていく（キャラクター化なども）
- 「伊賀七座しばいや」の活動を通じて飯塚伊賀七の認知度を向上させる
- 地域の交流拠点として商店街の空き店舗を活用する
- 行事・祭り・凧揚げ・運動会などイベントを通して多世代交流を図る

谷田部市街地基本情報	
人口	: 6,383 人 (R2/10/1 時点)
世帯数	: 2,841 世帯 (R2/10/1 時点)
戸建て住宅世帯数	: 1,451 世帯 (H28 年度)
空家数	: 84 件 (H28 年度)
空家率	: 5.8 % (H28 年度)

谷田部郷土資料館

谷田部地区内の文化財を収集し、3階に展示している。飯塚伊賀七が制作した木製和時計の復元品も展示されている。周辺には市役所窓口センターや保健センター、相談センターなどの各種行政施設が集約・充実している。

■開館時間：10:00～16:00
■休館日：月・祝日・年末年始
■入館料：無料

飯塚伊賀七

飯塚伊賀七は、江戸時代後期の発明家で、五角堂や和時計のほかにも、布施弁天の鐘楼、自動人形ロボット（からくり人形）、飛行機などの設計をした。伊賀七の名は当時、不動並木（つくば工科大学前）に存在した松並木、広瀬周度（蘭学を修めた谷田部藩医で書画の奇才）と並び、「谷田部に過ぎたるもの三つ」の一つにも数えられた。

地域づくりのアイデア

- 【PR・情報発信に関する意向】
- ・伊賀七を谷田部のシンボルにする（例 伊賀七のキャラクター化など）
 - ・伊賀七に関する劇を上演する
 - ・不動並木の復活
 - ・伊賀七の名のつく商品等、谷田部の名物をつくる など

庁舎跡地

以前はつくば市谷田部庁舎があった場所で、現在は更地となっている。

■敷地面積：約7,900㎡
■現在の利用状況：バスロータリー、イベント開催時の臨時駐車場、千歳通り公園ボランティア倉庫（仮称）、谷田部小学校教員用駐車場、記念碑等

地域づくりのアイデア

- 【その他の意向】
- ・子どもの集う保育施設
 - ・商業施設等の誘致
 - ・公共施設の一体化（図書室など）
 - ・フリーマーケット等の開催 など

イベント（一例）

- オータムフェア（秋祭り）
地元の小中学生の楽器演奏やダンス等が行われるほか、飯塚伊賀七の歴史について巡る「飯塚伊賀七巡り」も行われた。
- どろ市（だるま市）
谷田部小学校周辺で行われ、年の瀬の年中行事として明治初期から行われている。しめ飾りやダルマ等、正月用の縁起物が売られる。
- 内町祇園祭
■凧揚げ など

イベント・祭り等による多世代交流

地域づくりのアイデア

- 【地域交流・コミュニティに関する意向】
- ・イベントを通じた多世代交流の促進
- 【イベント・祭りに関する意向】
- ・イベントや祭りによる活性化
 - ・周辺地区と連携したイベント など

空き店舗を地域交流拠点として活用

- 地域づくりのアイデア
- 【地域交流・コミュニティに関する意向】
- ・空き店舗を地域交流の拠点として活用
 - ・空き店舗を利用して多世代交流の促進
 - ・伊賀七座（伊賀七の演劇）を上演する
 - ・飯塚伊賀七巡り（街歩き）の際の拠点にする など

伊賀七を核に人を呼び込む

子どもから高齢者まで
暮らしやすいまちづくり
（歩いて暮らせるまち等）

五角堂

五角堂は、一辺約4.6mの正五角形をなし、内部に残る飯塚伊賀七によって作られた和時計は、木製和時計としては日本でも最大のものと言われる。五角堂と和時計はともに、県指定文化財となっている。

茨城県立 つくば工科高等学校

平成29年に創立90年を迎えた伝統ある学校。昭和2年に町立筑波実修学校として開校したが、「筑波研究学園都市」に指定後は、中堅技術者の育成及び産業構造の変化や技術化を目的とした教育を行っている。

■学科：
機械科・ロボット工学科・電気電子科・建築技術科

地域づくりのアイデア

- 【観光・地域外との交流に関する意向】
- ・高校生とのコラボレーション
 - ・ロボットコンテストの開催 など

谷田部市街地

- 谷田部児童館
- 市民ホールやたべ
- 谷田部総合体育館
- 谷田部小学校

千歳通り

コミュニティ道路として整備された千歳通りは、谷田部オータムフェア等のイベントでも利用される。

伊賀七を核に人を呼び込む

工科高校との連携（歴史×科学）

つくばみらい市

みどりの駅

常磐自動車道 谷田部IC



【地域資源・地域の意向等】

（資源の分類）

- 核となる資源
- 地域の特徴となる主要な資源

（地域がやりたいこと・意向の分類）

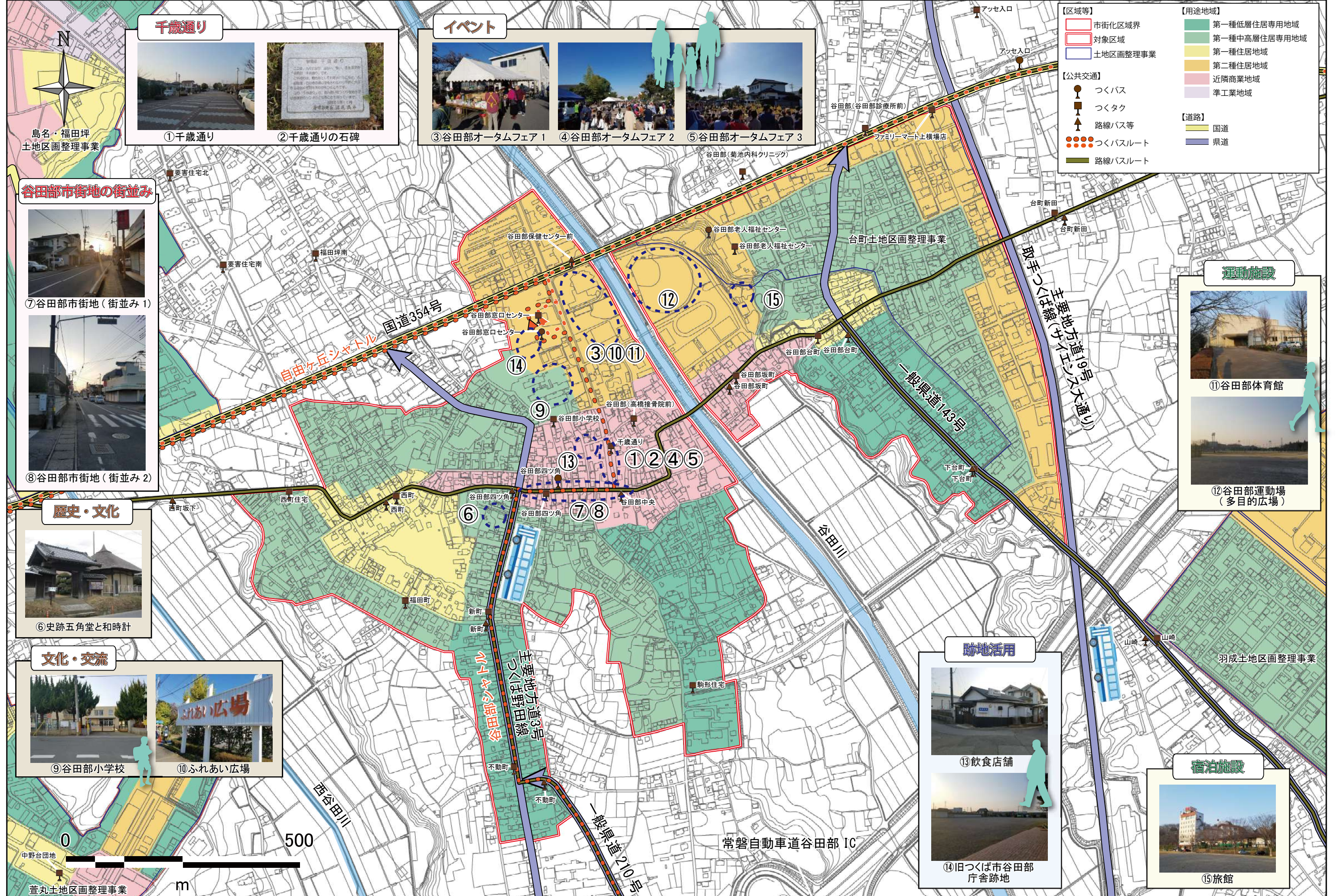
- 地域交流・コミュニティに関する意向
- イベント・祭りに関する意向
- PR・情報発信に関する意向
- 観光・地域外との交流に関する意向
- その他の意向
- 地域がやりたいことの補足

【区域等】

- 市街化区域界（谷田部市街地）
- 市街化区域界（その他）
- 谷田部中学校区
- 谷田部小学校区
- 行政界
- 常磐自動車道
- 河川

谷田部市街地カルテ（現況図①）

～都市計画・地域資源等から見る谷田部市街地の様子（地形図ベース）～



千歳通り



イベント



谷田部市街地の街並み



歴史・文化



文化・交流



運動施設



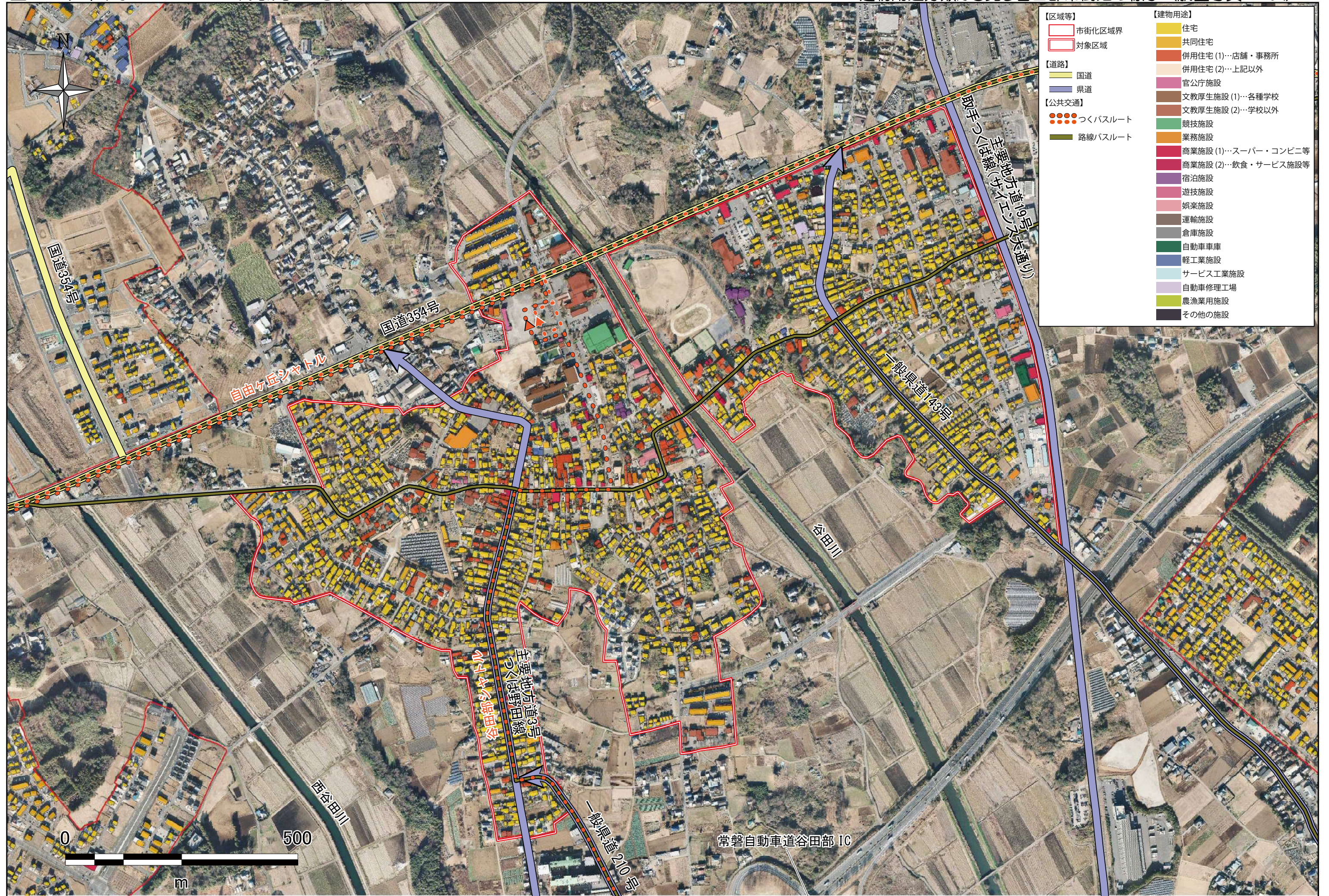
跡地活用



宿泊施設

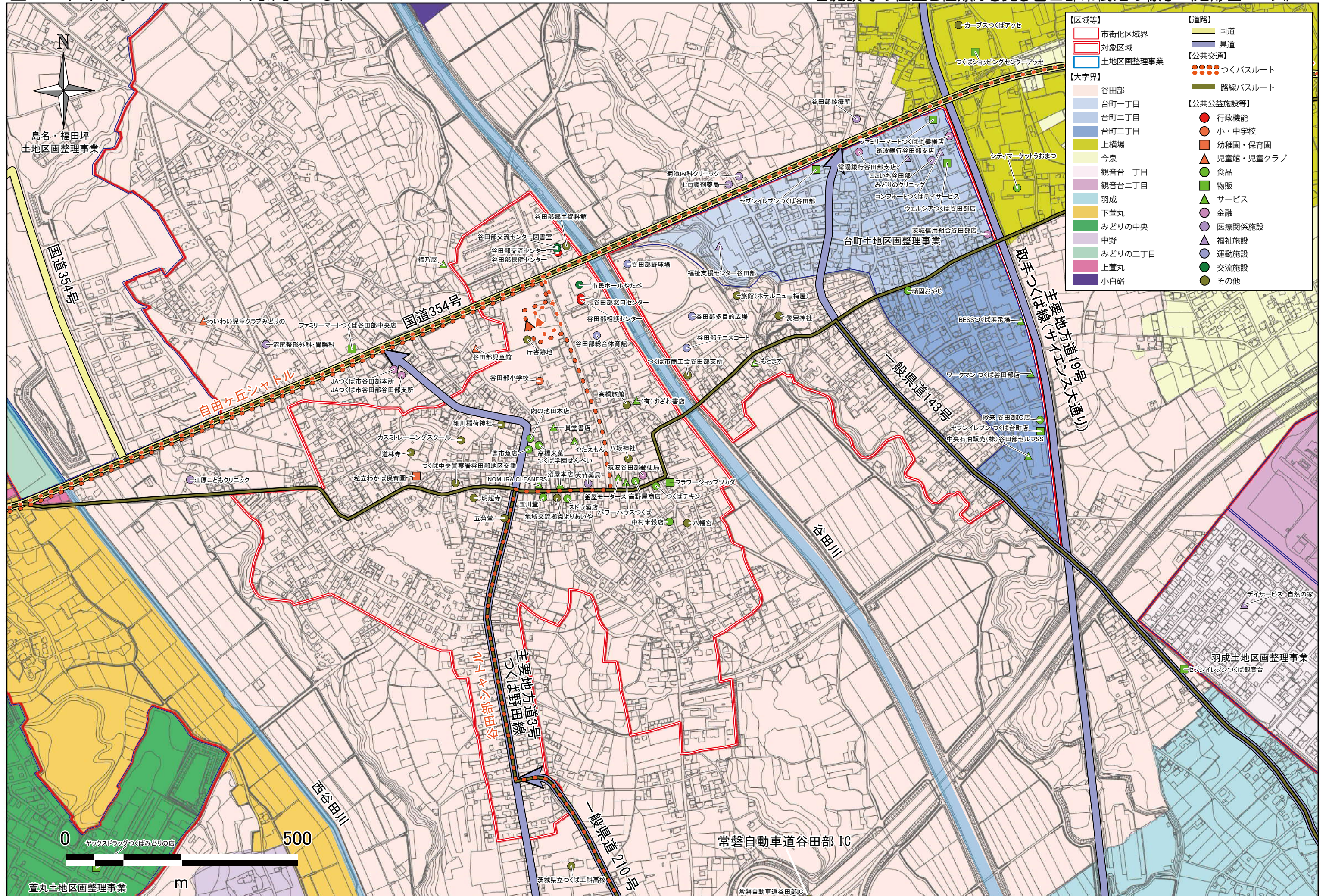


【出典】現況図：都市計画基本図（平成26年2月）、市街化区域等：平成28年度 茨城県都市計画基礎調査 ※掲載している写真は地域資源等の一部です。 平成31年3月20日 一部更新

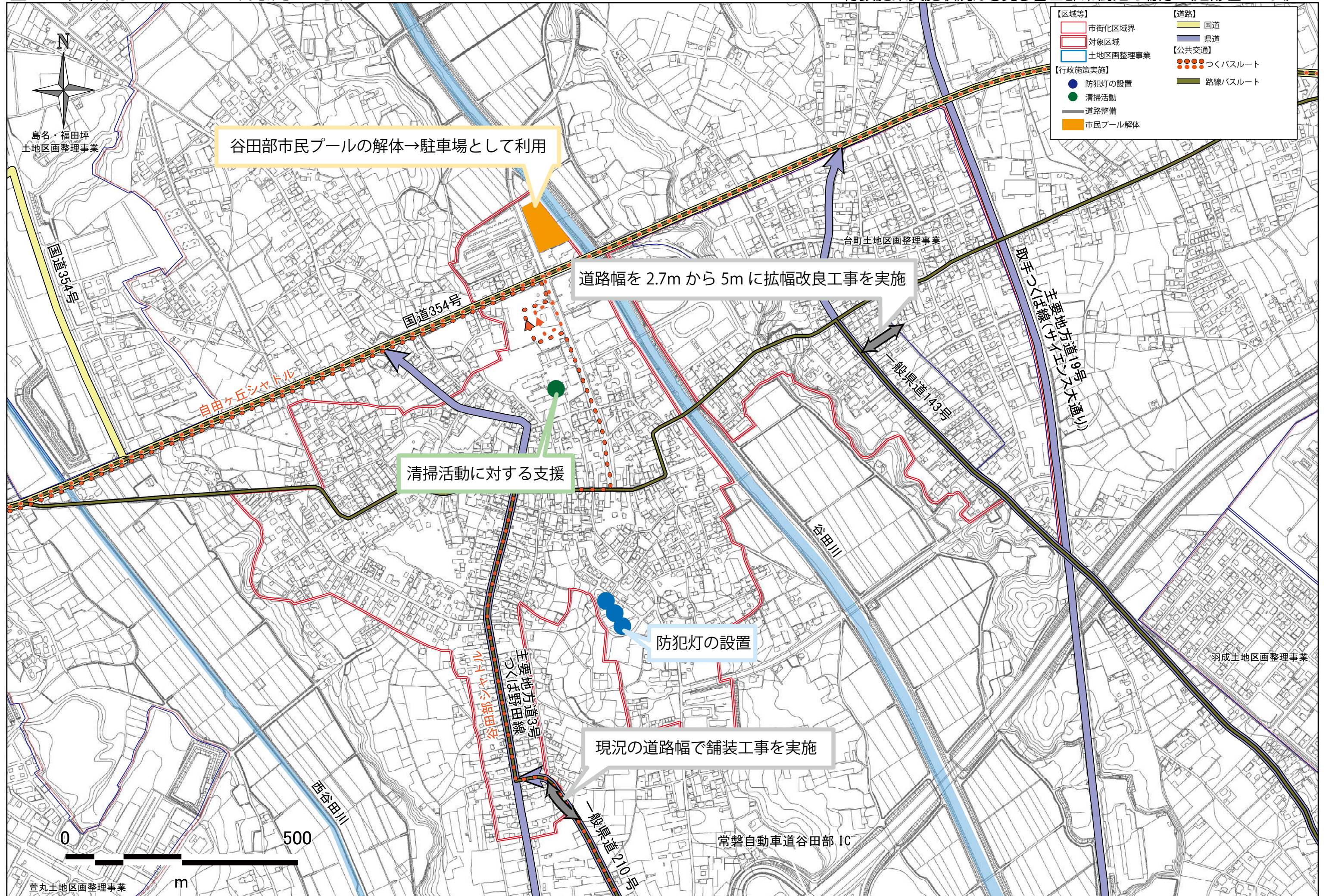


谷田部市街地カルテ（現況図③）

～各施設等の位置と種類から見る谷田部市街地の様子（地形図ベース）～



【出典】現況図：都市計画基本図（平成26年2月）、市街化区域等：平成28年度茨城県都市計画基礎調査、大字界：つくば市資産税課情報（平成30年1月）
 ※この図面は、随時更新を図っていくため、各種名称の変更等、ご意見等ある場合は周辺市街地振興室までご連絡ください。



歴史と科学が手を結ぶ 伊賀七に学ぶ やたべの未来

谷田部市街地の地域振興のテーマ

- ・伊賀七のシンボル化
- ・伊賀七座しばいや（伊賀七の劇を上演する）
- ・町の中心によりあいや（空き店舗：アラキヤの活用）
- ・行事・祭り・凧揚げ・運動会（イベント・祭りの活用）
- ・福祉のまち（子どもから高齢者まで暮らしやすいまち）

「ライブ LP レコード鑑賞会」の実施

わわわやたべや町民会議により「ライブ LP レコード鑑賞会」が開催された。

実施日：2020 年 10 月 10 日～
 実施回数：5 回
 実施場所：伊賀七庵
 参加者数：60 名

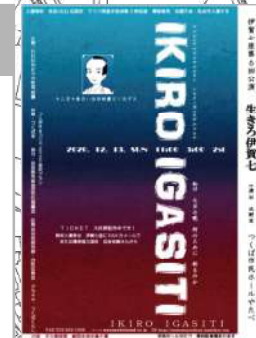


「生きる伊賀七」公演の企画

わわわやたべや町民会議により「生きる伊賀七」公演が企画され、小中学生とともに衣装作成や、公演の音響効果吹き込み等、公演の準備が行われた。

実施予定日：2020 年 12 月 13 日
 実施予定場所：市民ホールやたべ

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期



「中高年のための健康講座」の実施

わわわやたべや町民会議により「中高年のための健康講座」が開催された。

実施日：2020 年 10 月 17 日
 11 月 7 日
 実施場所：伊賀七庵
 参加者数：約 35 名



紙芝居伊賀七物語の製作

わわわやたべや町民会議により、伊賀七を題材とした紙芝居が制作された。（2020 年度）



「谷田部街道めぐり」の作成

谷田部市街地活性化協議会により谷田部市街地の紹介を目的とした「歩いて発見。谷田部街道めぐり」が作成された。（2020 年度）



「祝翔会」の実施

わわわやたべや町民会議により朗読劇「にんげん伊賀七」公演が行われた。

実施日：2019 年 9 月 15 日
 実施場所：伊賀七庵
 観客数：68 名



「谷田部市街地オータムフェア」の開催

谷田部市街地オータムフェア実行委員会により「谷田部市街地オータムフェア」が開催された。

実施日：2019 年 11 月 3 日
 実施場所：千歳通り及びふれあい広場

連携

「大八展」の実施

studio weekend により「大八展」が実施された。

実施日：2019 年 11 月 3 日
 実施場所：ふれあい広場



「クリスマス伊賀七」公演

わわわやたべや町民会議により「クリスマス伊賀七」公演が行われた。

実施日：2019 年 12 月 15 日
 実施場所：伊賀七庵
 観客数：176 名



連携

「伊賀七にんげんまつり」の実施

わわわやたべや町民会議により「あっぱれ伊賀七」公演が行われたほか、500 個の和提灯が飾られた。

実施日：2019 年 11 月 3 日
 実施場所：伊賀七庵
 観客数：150 名



「伊賀七 BRANDDAY」公演

わわわやたべや町民会議により「伊賀七 BRANDDAY」公演が行われた。

実施日：2020 年 2 月 16 日
 実施場所：伊賀七庵
 観客数：157 名



「絵画展と歳末チャリティバザール」の開催

わわわやたべや町民会議により「絵画展とチャリティバザール」が開催された。

実施日：2019 年 12 月 8 日～
 12 月 15 日
 実施場所：伊賀七庵



地域交流拠点の整備

地域交流拠点として谷田部市街地活性化協議会によりアラキヤの整備が行われた。

実施日：2020 年 1 月 7 日～
 1 月 31 日
 実施場所：アラキヤ

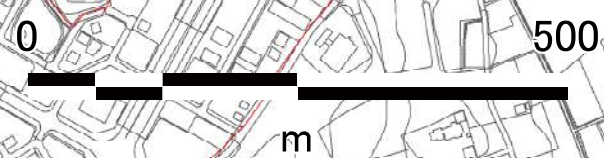


【区域】

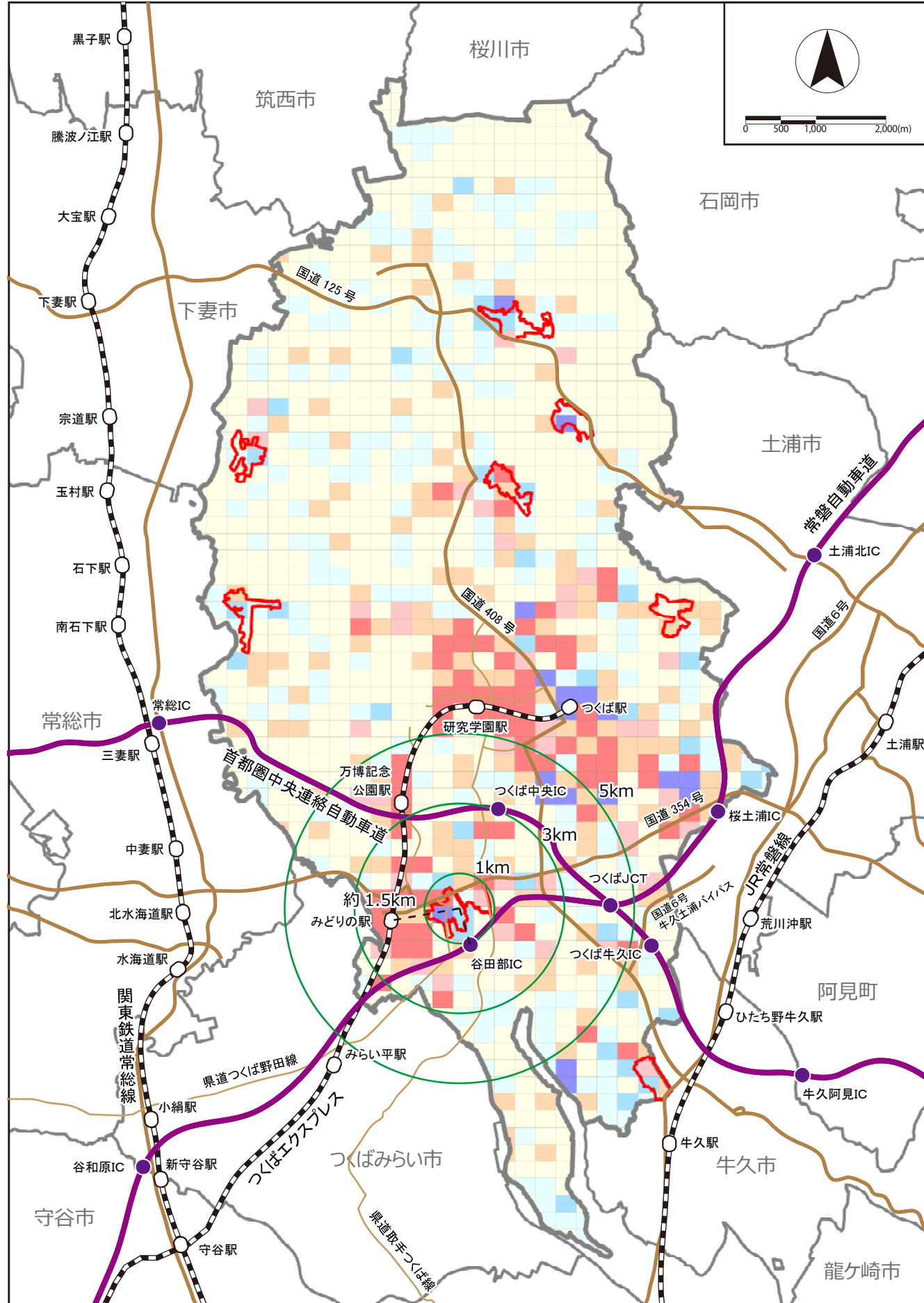
- 市街化区域界（谷田部市街地）
- 市街化区域界（その他）

【活動実績】

- 周辺市街地活性化協議会の活動
- R8 コンペ採択者の活動
- その他の事業者の活動



谷田部市街地カルテ（統計等データ分析）



【凡例】

行政界	平成 22 年～平成 27 年の人口増減（国勢調査）		
市街化区域界（8 市街地のみ）	100 以上の増加	10 人未満の増減	10 人以上の減少
半径（1～5km）圏域	50 以上の増加	10 人以上の増加	50 以上の減少
			100 人以上の減少

●人口等の状況

- ・人口：1km圏内（4,851 人） 3km圏内（24,318 人） 5km圏内（68,637 人）
- ・世帯数：1km圏内（1,911 世帯） 3km圏内（10,018 世帯） 5km圏内（27,430 世帯）
- ・人口増減（平成 22 年～平成 27 年）
 - 1km圏内（+131 人） 3km圏内（+4,229 人） 5km圏内（+8,656 人）
 ⇒人口は増加しており、市街地の周囲では特に増加が著しい。

※圏域の中心は、対象となる市街化区域の重心（中心）としている
 ※圏域内の人口は、平成27年国勢調査のデータをもとにGIS上で1～5km圏内の人口を算出したものである(つくば市外も含む)

●主要なアクセスの状況

- ・市内の最寄駅：つくばエクスプレス みどりの駅（約 1.5km）
- ・最寄のインターチェンジ：常磐自動車道 谷田部 IC（約 1km）
- ・市内の最寄駅からバスでの所要時間：約 10 分（つくバス自由が丘シャトル・谷田部窓口センター）
- ・市内の最寄駅から車での所要時間：約 10 分

●地区に関連する主要な道路の状況

- ・地区内を通過する又は近接する国道は、国道 354 号の1路線である。
⇒交通量は 21,078 台/24h
- ・地区内を通過する又は近接する主要地方道は、つくば野田線、取手つくば線の2路線である。
⇒交通量は 13,006 台/24hと12,676 台/24h

※出典：平成27年道路交通センサスより、対象市街地に近い区間データを抽出

●周辺地域（※）の状況

- ・TX 沿線開発地区に近接している。
- ・周辺にある他市町村は、つくばみらい市と常総市の2市である。

※周辺の範囲として、5km圏内（自転車でも20分程度で移動できる範囲）を目安としている。

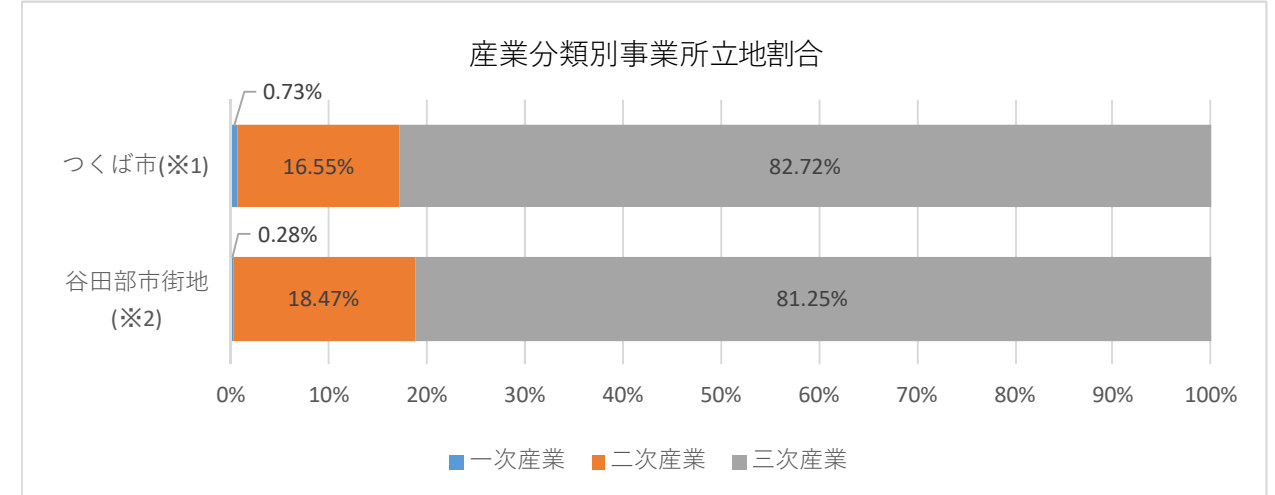
●地価の状況（公示地価及び都道府県地価調査で地区内に標準地・基準地があるもの 2018 年時点）

- ・地区内には公示地価の標準地が2箇所（住宅地）あり、平均 25,600(円 / m²)である。
- ・地区内には都道府県地価調査の基準地が3箇所（住宅地）あり、平均 26,767(円 / m²)である。
- ・いずれも 1992 年以降、下落傾向である。

※つくば市の平均基準地価 76,872(円 / m²)

●産業の状況

- ・市全体の産業構成と比べると、若干ではあるが2次産業の割合が高い。

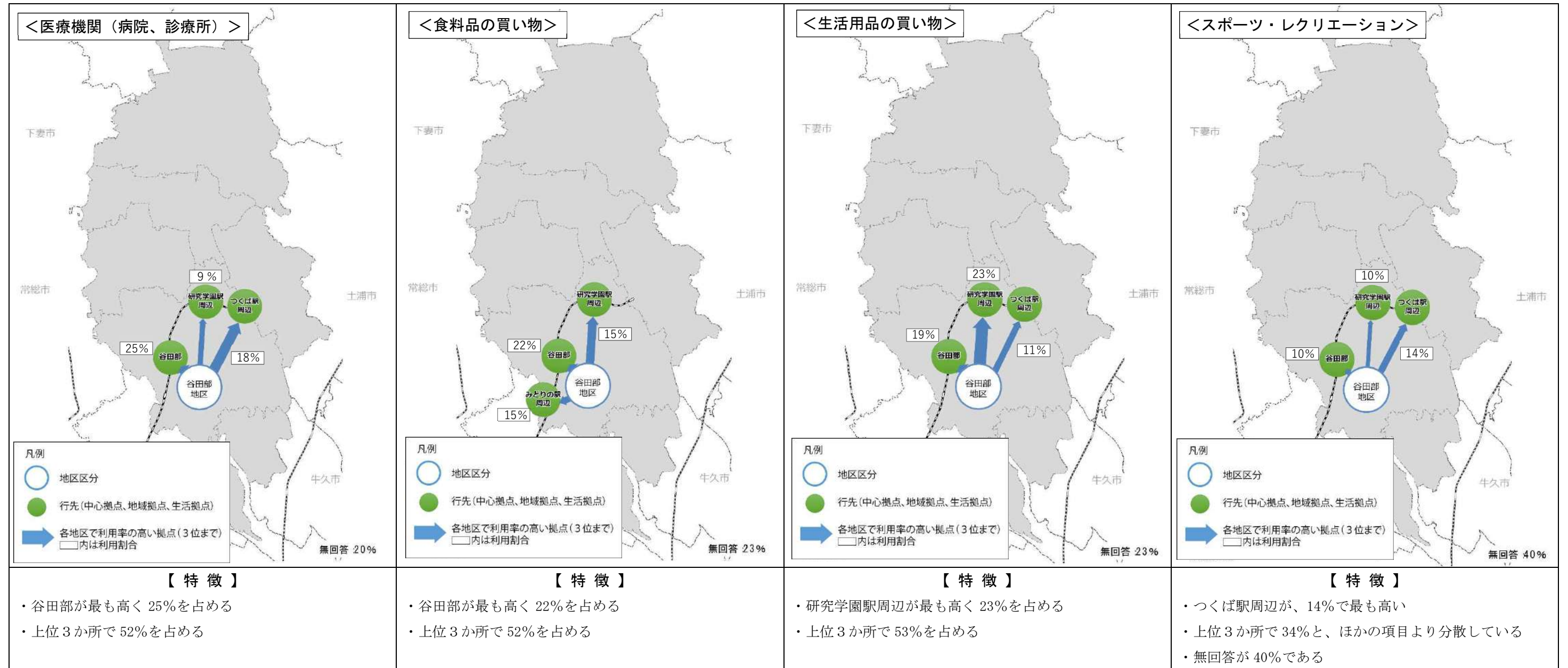


※1 出典：平成 28 年経済センサス活動調査
 ※2 出典：RESAS まちづくりマップ（原典：日本ソフト販売株式会社「電話帳データ」）
 市街地カルテ内で使用している図郭に概ね含まれる区域内の事業所をベースとして算出している

谷田部市街地（谷田部地区）カルテ（生活行動分析）

市民アンケートの結果から地区ごとに生活行動を確認し、地区・拠点間の関係性を整理した。谷田部地区はつくば市の南部で、TX 沿線地区・研究学園地区に隣接し、谷田部市街地を含む地区である。参考とする市民アンケートは、「お住まいの地域とこれからのまちづくりに関するアンケート」及び『「まちづくり」『つくバス・つくタク』地区別懇談会アンケート』とした。

アンケートの集計結果（目的別の外出先に関する調査項目）



出典：つくば市立地適正化計画

アンケート概要	
お住まいの地域とこれからのまちづくりに関するアンケート	「まちづくり」「つくバス・つくタク」地区別懇談会アンケート
調査期間：平成 28 年 2 月 8 日～平成 28 年 2 月 26 日	調査期間：平成 29 年 7 月 8 日～平成 29 年 7 月 19 日
調査対象：約 2,000 人（層化二段無作為抽出法）	調査対象：「まちづくり」「つくバス・つくタク」地区別懇談会終了時に参加者に対して配布
配布数：1,992 通（回収数：621 通 [32.1%]）	回収数：317 通

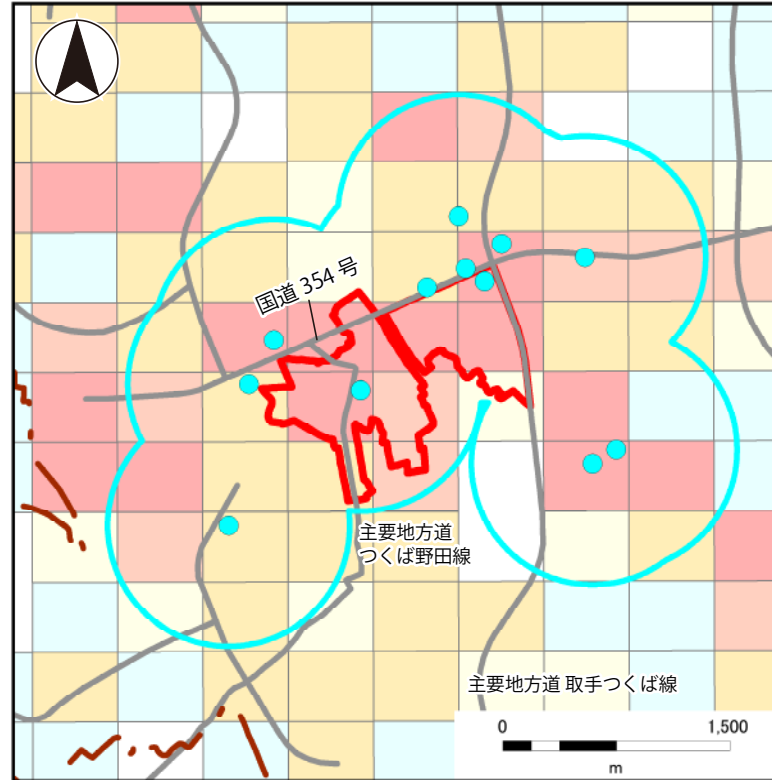
●谷田部地区における生活行動のポイント●

谷田部地区は地区内の拠点である「谷田部」の利用割合が高く、その他はTX沿線の拠点地区を利用していることが特徴的である。また上位3か所で占める割合が50%を超えている項目が多く、他の地区よりも特定の場所に集中する傾向が見られる。

しかし、スポーツ・レクリエーションについては分散傾向が見られるほか、他地区同様に他の質問よりも無回答の割合が若干高い傾向にある。

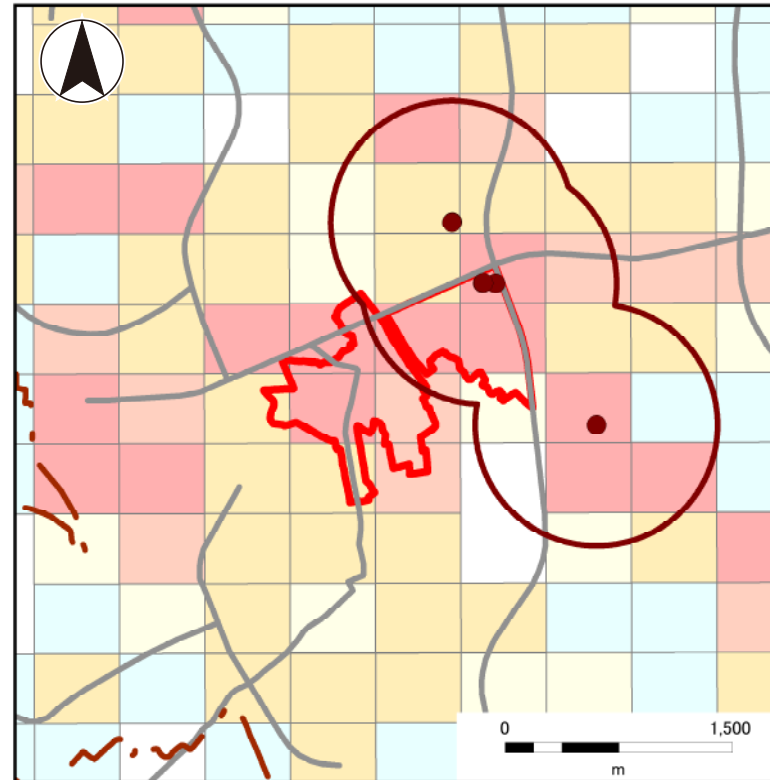
谷田部市街地カルテ（徒歩圏の生活サービス施設立地状況分析）

医療施設徒歩圏 (800m) 図



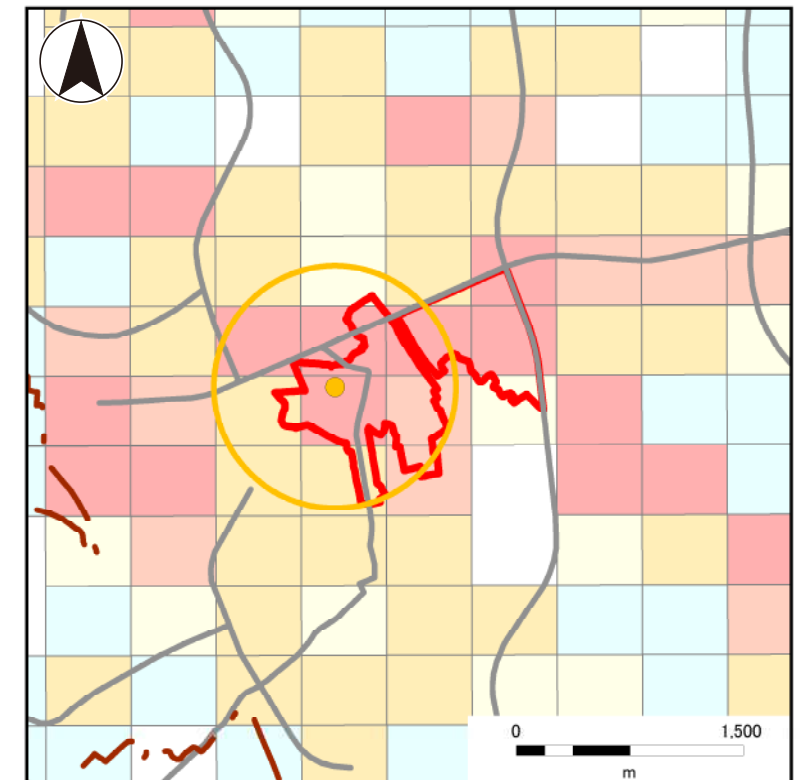
対象市街地面積カバー率	100%	
対象施設件数	地域内: 2箇所	地域外: 10箇所

福祉施設徒歩圏 (800m) 図



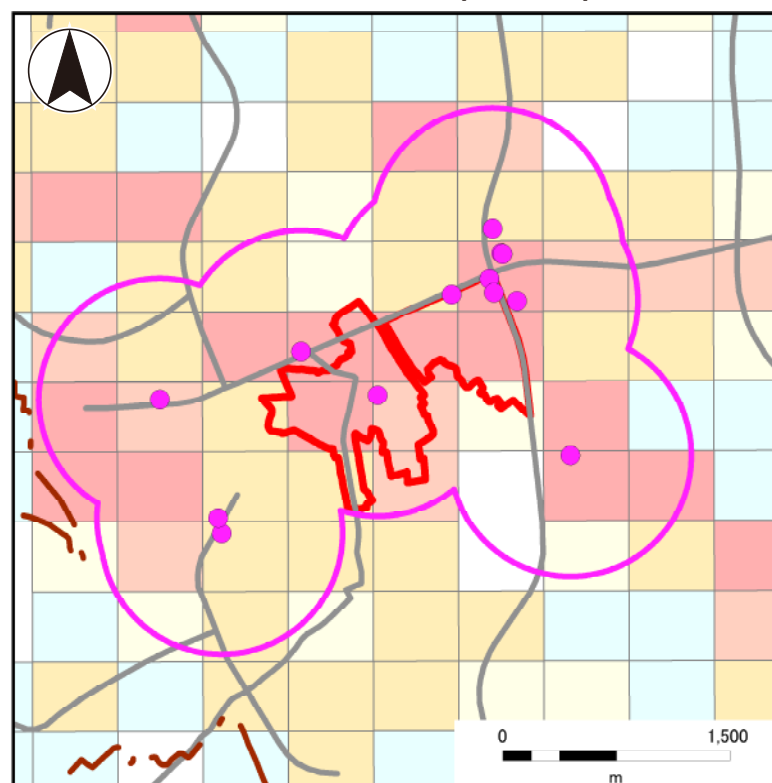
対象市街地面積カバー率	45%	
対象施設件数	地域内: 3箇所	地域外: 3箇所

子育て施設徒歩圏 (800m) 図



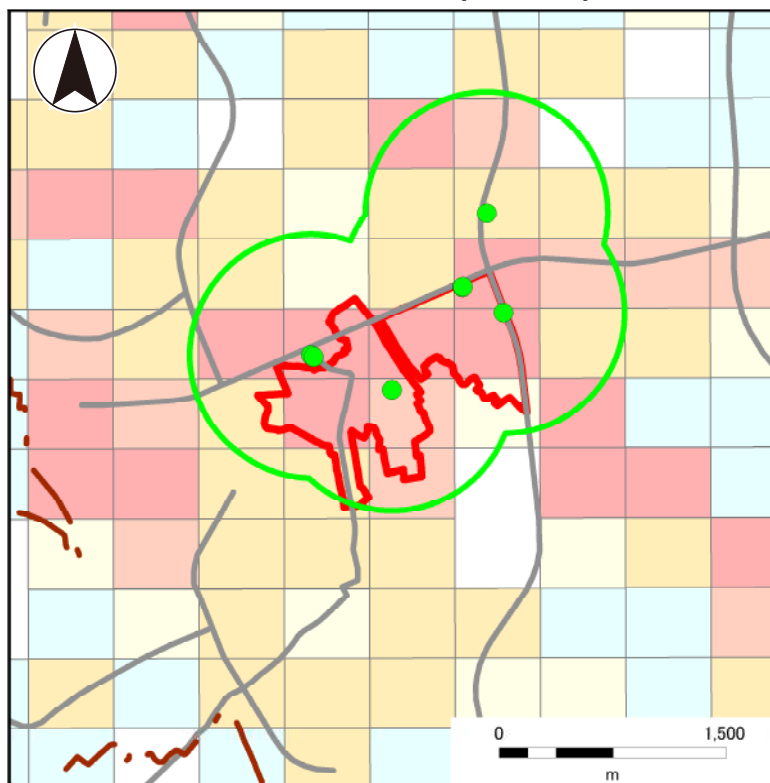
対象市街地面積カバー率	66%	
対象施設件数	地域内: 1箇所	—

商業施設徒歩圏 (800m) 図



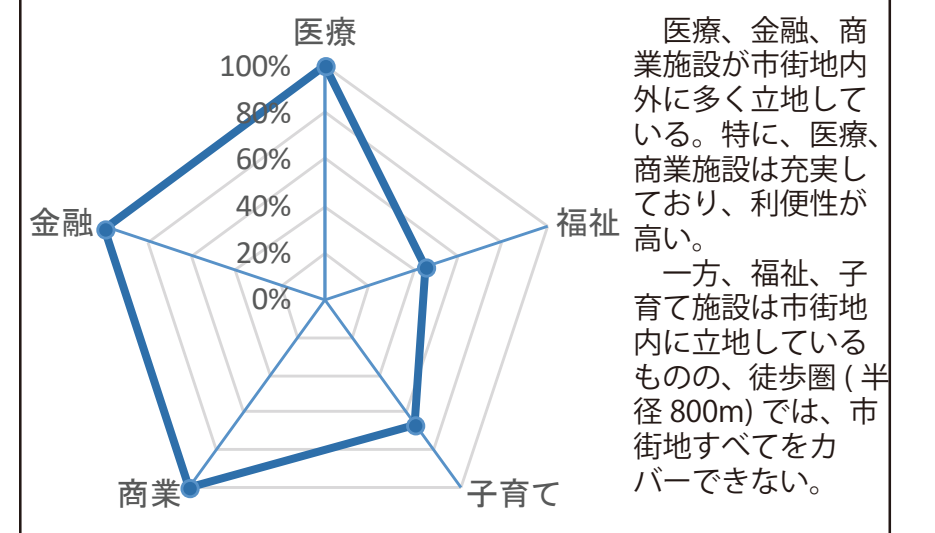
対象市街地面積カバー率	100%	
対象施設件数	地域内: 4箇所	地域外: 9箇所

金融機関徒歩圏 (800m) 図

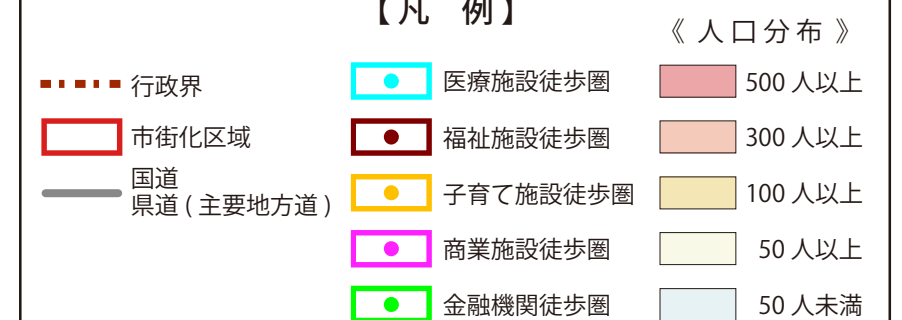


対象市街地面積カバー率	99%	
対象施設件数	地域内: 3箇所	地域外: 5箇所

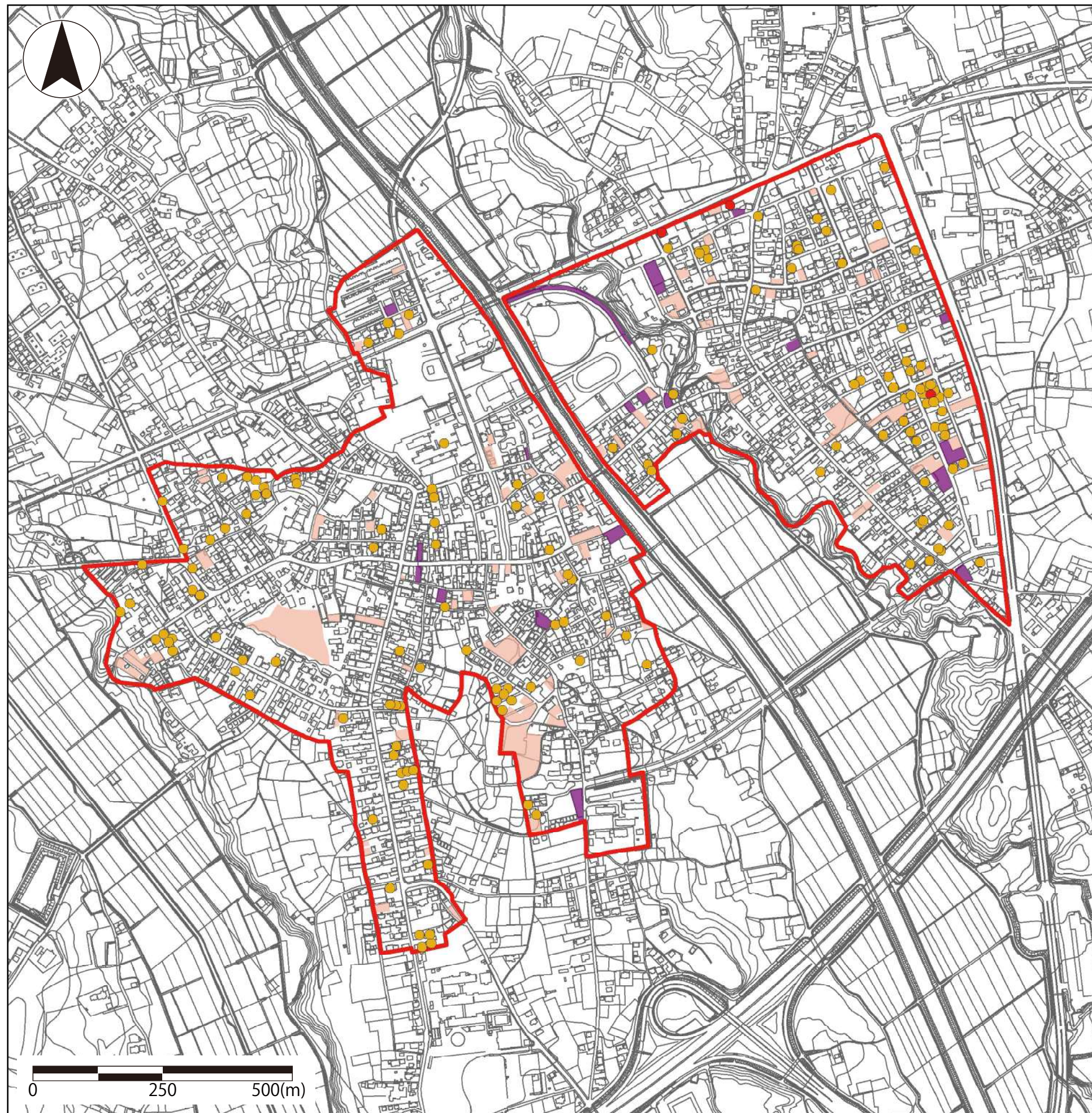
日常生活サービス施設充実度



【凡例】



谷田部市街地カルテ（土地利用ポテンシャル分析）



《土地利用ポテンシャルの状況》

対象市街地の土地利用で「空地」と「駐車場」着目すると、対象市街地の面積に対して、「空地」が4.8%、「駐車場」が1.1%で合計が約5.9%となっている。

空地の割合が高く、地区全体に点在していることから、種地として新たな土地活用の可能性がある。

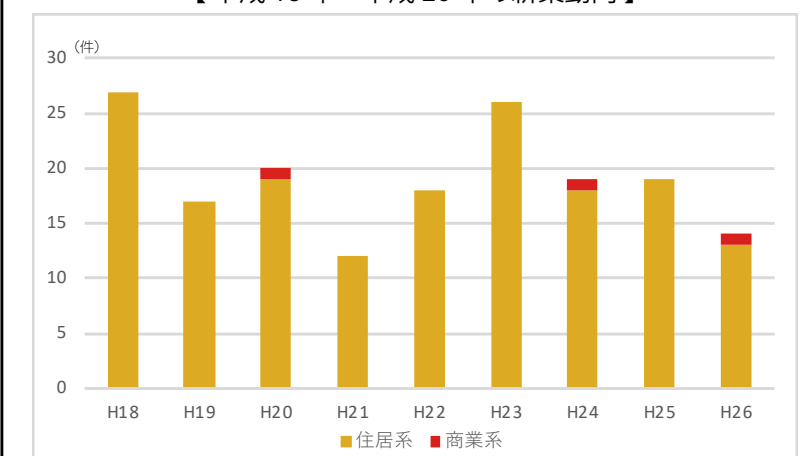
	面積(m ²)	構成比(%)
対象市街地面積	1,151,314	100%
空地	54,989	4.8%
駐車場	12,995	1.1%
合計	67,984	5.9%

対象市街地の新築動向で平成18年から平成26年までの分布を見た場合、「住居系」の新築件数が169件、「商業系」が3件でほとんどが「住居系」の新築動向となっている。

本市街地については、一部まとまった開発がみられるものの地区全体で、住宅が新築されている。

経年の動向としては、平成18年の新築件数が最も多く27件、平成21が12件と最も少ない。近年では、平成23年に増加したものの、それ以降は新築件数が減少しつつある。

【平成18年～平成26年の新築動向】



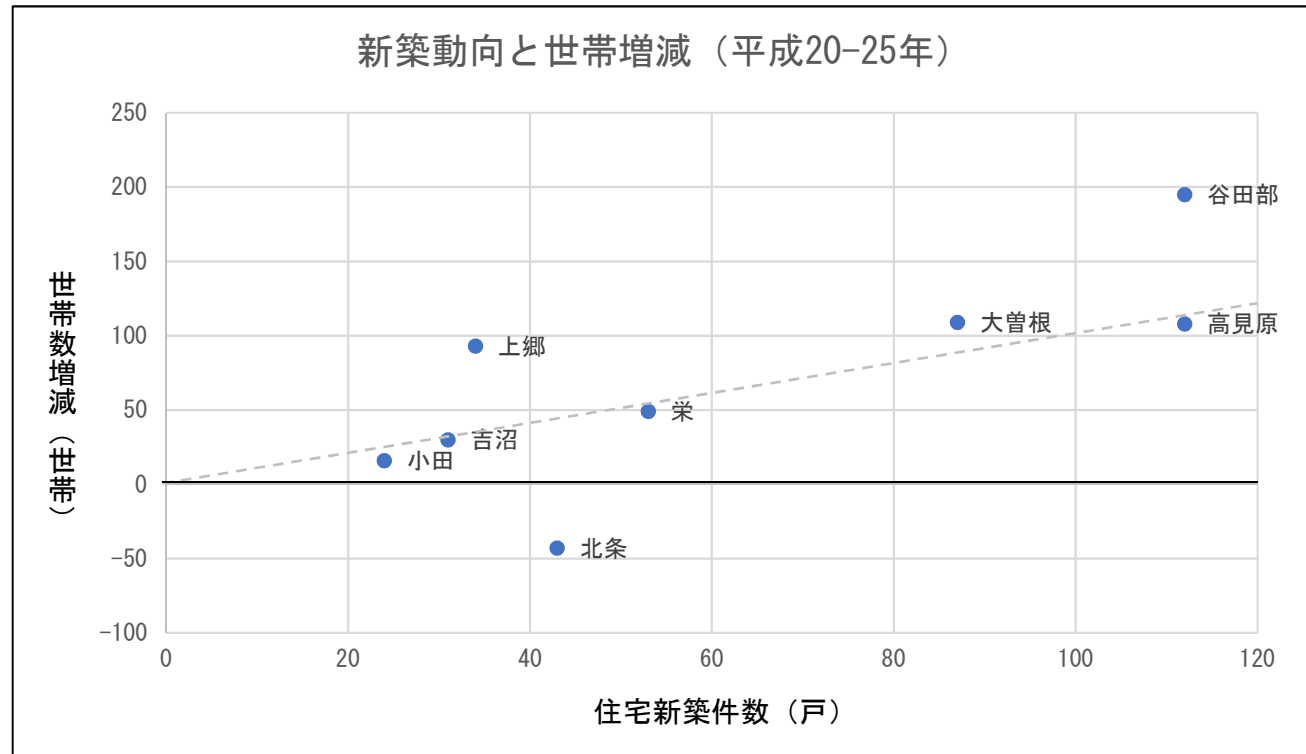
【凡例】

- | | | |
|--|--------|---------------|
| | 〈土地利用〉 | 〈新築動向 H18-26〉 |
| | 市街化区域界 | |
| | 空地 | |
| | 駐車場 | 商業系 |

出典：「土地利用」及び「新築動向」は平成28年度都市計画基礎調査データより作成

市街地カルテ（8市街地比較による特徴把握）

1. 新築動向と世帯増減（平成20-25年）



平成28年都市計画基礎調査結果、行政区別人口統計より作成

8市街地の分布を見ると、①世帯数の増加と新築数がほぼ同数である市街地（小田・吉沼・栄・高見原）、②新築数を世帯数の増加が上回る市街地（上郷・谷田部・大曾根）、③世帯数が減少している市街地（北条）に分けられる。

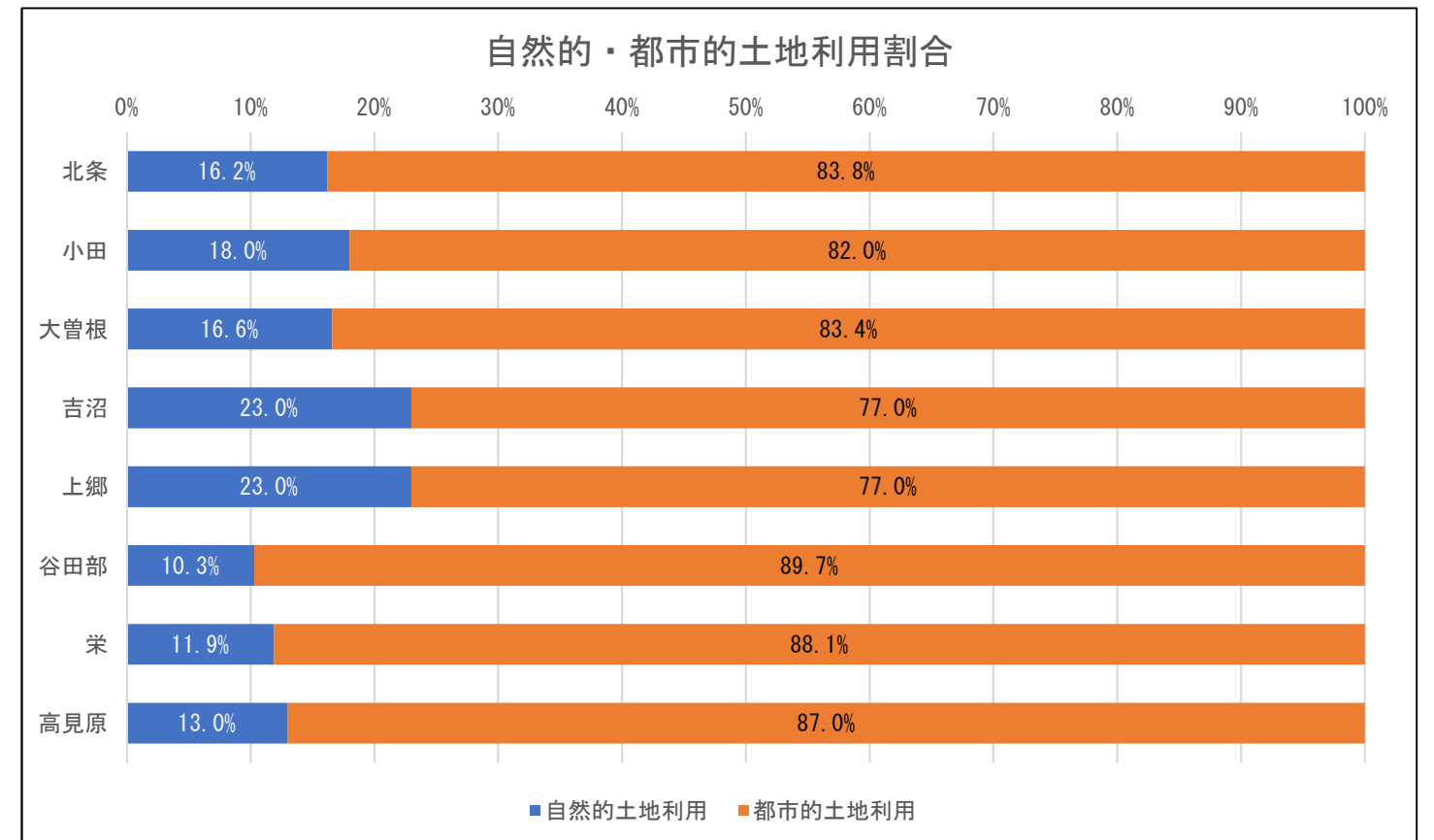
①の中でも高見原は増加量が大きく、新築の住宅需要が大きいことが分かる。

②の中では谷田部の規模が大きく、新築の居住に加え、賃貸住宅への入居による世帯数の増加があることを示している。同じく世帯数の増加が新築件数を上回る上郷・大曾根についても同様に賃貸住宅への入居が見られることを示しているが、比較的規模は小さいと言える。

③の北条については8市街地で唯一、世帯数が減少している。新築件数自体は40件を超えており一定規模の需要が見られるが、世帯数は同数の減少が見られる。これは平成24年5月に発生した竜巻による被害が影響していると考えられる。この竜巻による北条市街地の被害は、居宅に限っても72件が全壊、27件が大規模半壊、140件が半壊とされており、計239件の居宅が大きな被害を受けている（※）。これらの被害を受けて新築した可能性や、この被害を契機に市街地外に転出した可能性は十分に考えられるものであり、今回の集計結果に影響している可能性が高い。

※つくば市災害対策本部が作成した「5月6日に発生した竜巻による被害と復旧状況について」（平成25年4月26日）より引用。

2. 自然的・都市的土地利用割合（※）



平成28年都市計画基礎調査結果より作成

8市街地を比較すると、上郷・吉沼については自然的土地利用割合が大きく、高見原・栄・谷田部については都市的土地利用割合が高くなっている。

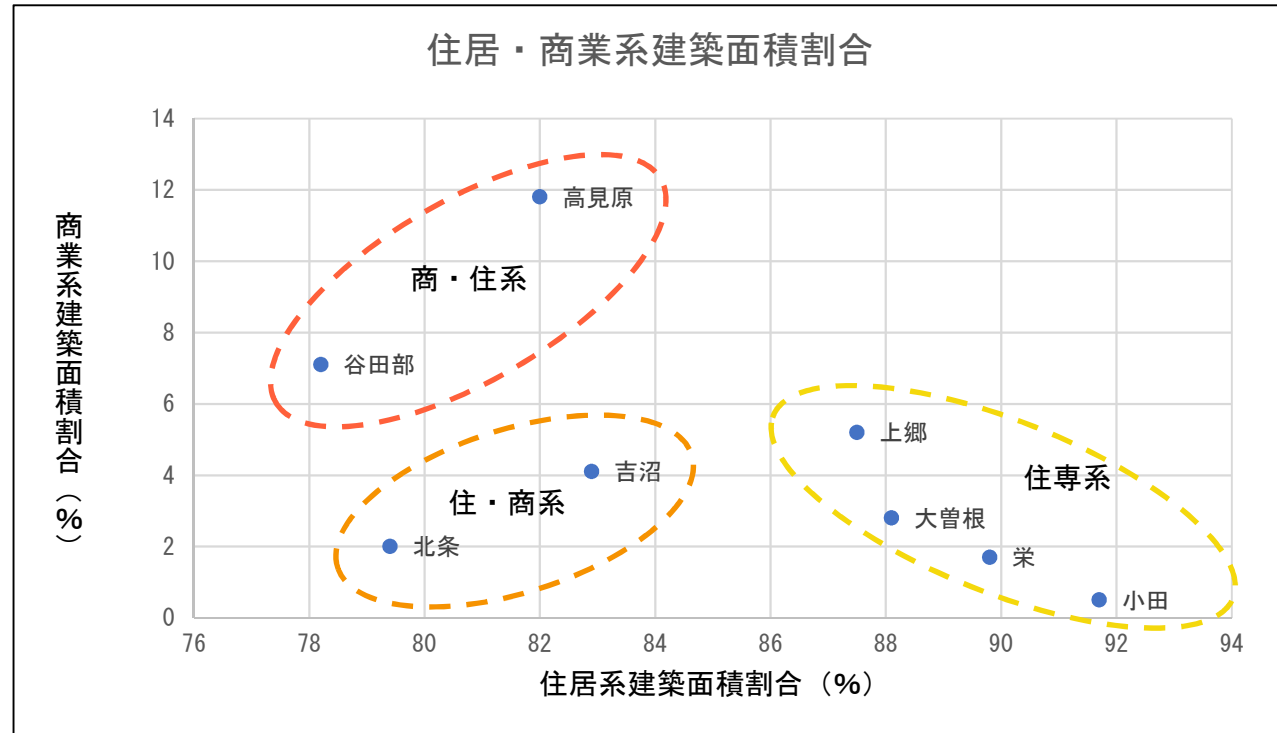
なお、自然的土地利用と都市的土地利用の具体的な用途は以下の通りである。

自然的土地利用	農地、山林、原野・荒地・牧野、水面、その他（海浜等）
都市的土地利用	住宅用地、併用住宅用地、商業用地、工業用地、運輸施設用地、公共用地、文教厚生用地、公園・緑地・公共空地、その他の空地、ゴルフ場、防衛用地、道路用地、鉄道用地、駐車場用地

都市計画基礎調査要領より作成

※都市計画基礎調査の土地利用現況データを元にして、GISにより対象8市街地の区域内のデータを抽出し、上記の土地利用分類ごとの構成比を算出した。

3. 住居系・商業系の建築面積割合



平成 28 年都市計画基礎調査結果より作成

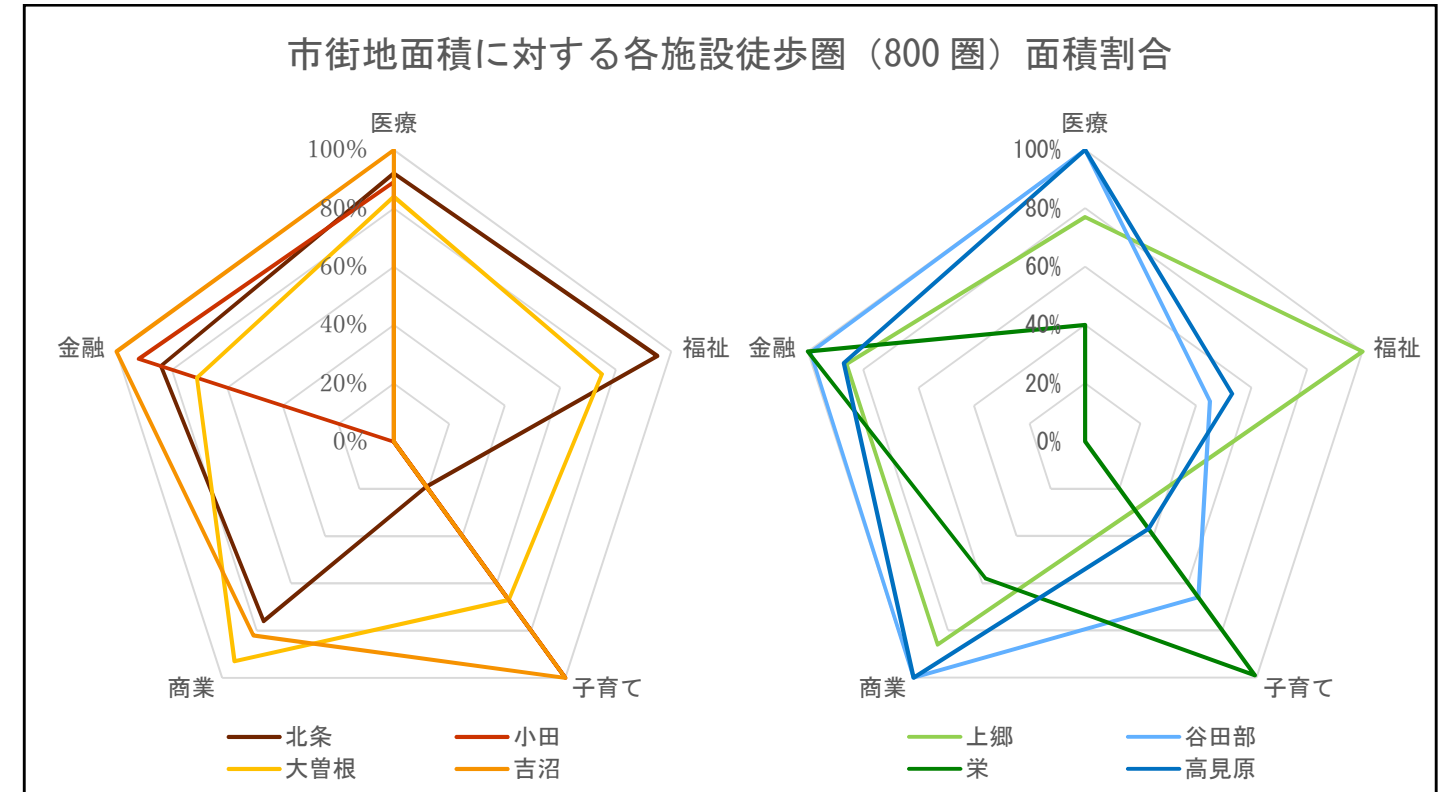
8市街地の建築面積割合を見ると、いずれも約80%以上が住居系であり、商業系は最大でも高見原の11.8%である。8市街地を分類すると、①商業系建築面積の割合が比較的高い、高見原や谷田部の「商・住系」、②住居系の割合が高い小田、大曾根、上郷、栄の「住専系」、③それらの間に位置する吉沼、北条の「住・商系」に分けられる。

①の高見原・谷田部は比較的商业系の建築面積が大きくなっており、住居系を主としながらも、一定規模の商業系利用が見られる市街地となっている。高見原は住居系と商業系が占める割合が市街地の中で最も高く、その割合は93.8%となっている。谷田部は8市街地の中で最も住居系の割合が低い市街地でもあり、住居系・商業系以外の利用も多いことが分かる。

②の北条・吉沼は住居系・商業系ともに比較的低く、その合計は北条が81.4%、吉沼が87%で、その他の利用が比較的多い市街地となっている。特に北条は谷田部について住居系の建築面積割合が低く、商業系も小田、栄に次いで低い結果であった。

③の小田・大曾根・上郷・栄は商業系が低く、住居系が高い住居中心の市街地となっている。特に小田は商業系の建築面積が最も低く、0.5%となっている。一方で住居系の建築面積割合は8市街地の中で最も高い91.7%となっており、住居系に特化していることが分かる。また上郷は住宅系を主としつつも商業系も5.2%存在しており、その合計は高見原に次ぐ92.7%となっている

4. 生活関連施設カバー面積割合の比較



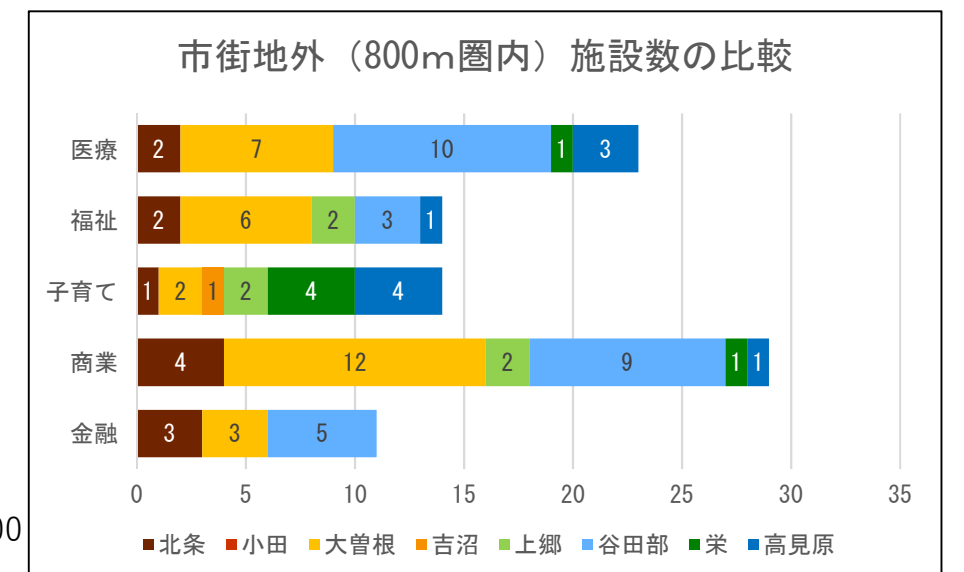
つくば市立地適正化計画（平成30年）より作成

8市街地の境界線から800m圏（徒歩10分圏）内にある施設を抽出し、施設から800m圏域に含まれる市街地面積の割合を算出した結果である。

8市街地を比較すると医療・金融・商業については比較的カバー面積割合が大きいものの、福祉や子育て施設に関しては市街地ごとに差が出ている。いずれの施設も立地しており、バランスが良いのは、大曾根市街地である。大曾根市街地は「3. 住居系・商業系建築面積割合」のとおり住専系の土地利用が見られたが、市街地外に多くの施設が立地しており、それらの施設によりバランスが取れた結果となった。

市街地外（800m圏内）の施設数を比較すると右図のとおり、大曾根と谷田部は地区外に多くの施設が立地していることが分かる。大曾根と同様に全体的なバランスがいい北条も、大曾根や谷田部と比較すると少数ではあるが、市街地外にも施設が立地している。

反対に小田は市街地外（800m圏内）には対象施設がない。



つくば市立地適正化計画（平成30年）より作成